

株式会社ロッテ

高い拡張性に魅力を感じてIBM Maximo Asset Managementを採用し、工場の設備管理システムを刷新

株式会社ロッテ（以下、ロッテ）狭山工場は、生産設備に関する煩雑な管理作業を解消するために、IBM Maximo Asset Management（以下、IBM Maximo）による設備管理システムを構築しました。同工場は、設備管理に加えて、将来のトラブル発生に備えたり予防したりするためのノウハウの蓄積や保全にもシステムを生かしていこうと考えています。

設備管理での煩雑な作業の解消

ロッテ狭山工場では、チューインガム、ビスケット、キャンディーなどのロッテ主力商品を生産しています。生産に使用する設備は、約7,000件に分類し、PC上のデータベースと紙を使って管理していました。設備データはデータベースに保存していましたが、その内容は紙の設備台帳や整備関連情報を指し示すだけのもので、実際に設備を探し出すためには紙に頼らなければなりません。ロッテ狭山工場で工場長を務める宇都宮勉氏は、このときの管理作業の煩雑さを次のように話します。「例えば、設備の導入にあたって、いままで使っていた機械を廃棄するなどの処理が必要です。ところが、使っている機械の履歴がわからないとこの作業ができません。そこで、過去の書類を引っ張り出して、いつ、どの機械を購入したかなどの履歴を調べるのですが、これが容易なことではなく非常に煩雑な作業になっていました」

このようなとき、他工場にすでに導入されていた資産管理ソフトウェアを目にした宇都宮氏は、設備管理で生じている煩雑さを解消するためにシステムを再構築する必要があると感じました。

拡張性の高さからIBM Maximoを採用

設備管理システムの刷新を検討していた宇都宮氏は、IBM主催のセミナーでIBM Maximoの存在を知りました。「話を聞いてみて、興味深い製品だと思いました。他工場が導入したソフトウェアは、資産管理といっても台帳管理しかできません。IBM Maximoは、台帳管理だけでなく、さまざまな場面に展開でき、発展性があると感じました」（宇都宮氏）。

ロッテ狭山工場で設備導入を担当する施設部技術課の谷浩彰氏は、IBM Maximoの特長を次のように話します。「他工場が導入したソフトウェアは、設備に関する情報を取めていき、設備台帳の芯になる部分を太くしていくものです。IBM Maximoは、設備台帳の



部分がきちんとしていることに加えて、機械の故障履歴やメンテナンス内容の指示など設備管理でプラスアルファになる部分が用意されています」

ロッテ狭山工場は、整備履歴、修理履歴、設備の移動履歴、作業計画など、さまざまな場面に展開できる拡張性の高さに魅力を感じ、IBM Maximoの導入を決定しました。そして、1カ月程度の短期間で設備管理システムのプロトタイプを構築し、近い将来の購買関係とのデータのリンクや設備メンテナンスに役立てられることを確信しました。「いままでは、設備台帳管理でしかありませんでした。IBM Maximoによって、設備全般に対する本当の管理ができると思っています」（宇都宮氏）。

漏れなく抽出される情報に感心

IBM Maximoの導入間もない現在、ロッテ狭山工場は、設備台帳をきちんと整備し直しています。それでも、関係する機械や装置を含め、間違いのない管理ができる点を、谷氏は高く評価しています。「いままで使っていたデータベースでは、何を所有しているか分かりませんでした。整備や修理等のデータを拾い出すときは、都度、機械の名称などを1件ずつ入れて探していました。IBM Maximoでは、これまでどのような整備や修理を設備や機械が経てきたかも分かります。また、ある設備や機



工場長
宇都宮 勉氏

械のデータを引き出すと、それに関連する情報が一緒に抽出されます。この点がこれまでのものと大きく違います。例えば、古くからある機械を改造して新たに部品を取り付けると、それらは親子関係になります。そして、親である機械を廃却するために購入時期や改修履歴を引き出すと、関係する子の情報などがすべて抽出され、いつ部品を取り付け、どのような改造を行ったかが分かります。このようなことがIBM Maximoでできることは知っていたのですが、実際に目にしたときに『おっ』と驚いてしまいました」

また、これまでの、設備台帳の確認に加えて現場での確認も行っていたが、それでも漏れがありました。IBM Maximoによって、一つの機械の情報を引き出すことで、関係する情報もすべて取り出せるようになり、このような漏れがなくなりました。

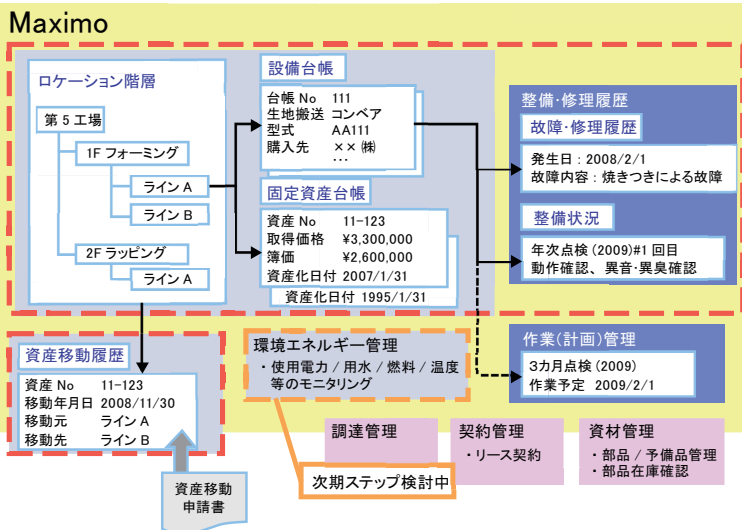
さらに、IBM Maximoの導入によって、設備担当者と経理担当者の互いの意識にも変化が表れました。それまでの設備台帳への登録では、経理部門から指定された資産情報をそのまま使っていました。IBM Maximoを導入したことで、資産の分類方法、資産情報の持ち方などに関して、より使いやすいものにしようと担当者レベルで考えるようになりました。「経理部門が指定してきた資産情報に対して、これまで以上に意識するようになりました。また、経理担当者もこちらの運用が目に向くようになりました。例えば、運用しやすい資産情報の持ち方をフィードバックしてグループ分けを検討してもらったり、資産になるのかどうかを問い合わせたりするようになりました。これは、設備に関するデータをきちんと可視化できたためです」(谷氏)。

将来のトラブル発生に備えたノウハウの蓄積

谷氏は、設備保全にもIBM Maximoが役立つだろうと話します。「IBM Maximoによって、将来どのようなメンテナンスが必要かも分かるようになります。いったんトラブルが発生すると、担当者

全体システムイメージ

※今回導入対象は  の部分になります。



は通常の業務を忘れてしまいがちです。IBM Maximoは、設備保全のために忘れてはならないものを教えてくれます」

また、宇都宮氏は、IBM Maximoを、単純な設備管理だけでなく、設備メンテナンスのノウハウを蓄積するために使いたいと考えています。「設備台帳管理は、あくまで過去の情報を管理するためのものです。将来に向けた情報の利用として、メンテナンスをどのように容易にしていけるかがあります。このために、過去のメンテナンス履歴をきちんと保存し、起こったトラブルに応じた対処方法をはっきりと分かるようにしたいと思っています。つまり、ためていったノウハウを引き出せるようにしたいのです。将来トラブルが起こったときに、どのような対処方法が最適であったり最短であったりしたかを分かるようにできればと思っています」

ロッテ狭山工場は、このような設備の保全やノウハウの蓄積とともに、環境エネルギーへの配慮にもIBM Maximoの能力を生かしていきたいと考えています。



施設部 技術課
谷 浩彰 氏

お口の恋人
LOTTE

株式会社ロッテ 狭山工場
〒350-1331
埼玉県狭山市新狭山1-2-1
<http://www.lotte.co.jp/>

IBM製品・詳細情報については、
IBMホームページ <http://www.ibm.com/jp/> をご利用ください。

お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員、
または、ダイヤルIBM (☎ 0120-04-1992) へ。
営業時間: 9時~18時 (土曜、日曜、祝日、12月30日~1月3日を除く)
※フリーダイヤル (0120) をご利用いただけないお客さまは、電話番号: 03-6220-8002 をご利用ください。
(通話料金はお客さまのご負担となります。)



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21
03-10 Printed in Japan

●このカタログの情報は2010年3月現在のものです。内容は事前の予告なしに変更する場合があります。●本事例中に記載の肩書や数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、開覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。●事例は特定のお客様での事例であり、全てのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。●製品、サービス等詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。

IBM, IBMロゴ, ibm.com, およびMaximoは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。